

## 【エッセイ部門・奨励賞】

### 弟の言葉

鹿児島県立鶴丸高等学校 第2学年 岩元 優那

私と十歳下の弟。顔はとてもよく似ている。しかし性格は正反対だ。何事も悲観的に捉えてしまい、自分自身を追い込んでしまう傾向のある私と、楽観的でマイペースな弟。正反対がゆえにケンカすることも多いが、私とは全く違った観点から生み出される数々の「言葉」が私に新たな気づきを与えてくれる。

弟の言葉その一、「寝るのは心を休めるため。さあ、心を休めるか」。

この言葉は、私が睡眠時間を大きく削り、無理をしながら学習していた時に、寝室に向かう弟が口にした言葉だ。この時私は、体力的には比較的大丈夫だったのだが、なぜか精神的に限界に近づいていた。しかし私は、睡眠は「脳や体を休めるため」、つまり身体的機能回復が目的と自分に言い聞かせることで、あえて寝ないようにしていた。ここでみなさんも気づくだろうが、このようなことをしていると、逆にパフォーマンスは下がる一方。私も睡眠時間を削ることで悪影響を与えていると薄々気づいていたものの、自分の中の固定概念を自分で変えることは、非常に困難であった。こうして自分で自分を追いつめていた時、弟の言葉をふと耳にした。

あの言葉を聞いて、あなたはどう思うだろうか。私は、「ああ、心を休めるためにも寝ていいのか……。」となんだか救われた気がした。自分では許しきれなかった「心を休めるために寝る」という行為を他者から認めてもらえるだけでこんなにも安心するのかという驚きもあった。人の言葉の力は大きいのだ。そして、弟の言葉で「睡眠」についての新しい認識を得た私は、以前よりしっかり睡眠をとるようになり、少しずつ結果も上昇していった。

弟の言葉その二、「人って心が違うよね、一人一人。だから細かいことは気にしない。」

これは、私が高校に入って様々な価値観の人と出会い、その一つ一つを理解しようとしすぎて疲れていた時の弟の言葉である。この言葉を聞いて、私ははっとした。それぞれが経験してきたことは違って、それに伴って考え方や捉え方も異なってくるのは当たり前のことなのに、私は自分なりの考え方を差し置いて他人に合わせようとばかりしていた。自分らしさを出すことが怖かったからだ。しかし弟の言葉のように、「それぞれの違いを認め合いながらも、細かいことは気にしなくていい」と考えてみると、不思議とどんな価値観も受け入れられるようになり、自分らしく振る舞うことができるようになっていった。

これらの二つの出来事のように、「言葉」は人に大きな影響を与えることが可能だ。それは、私が弟の言葉によって新しい気づきや勇気を与えられたように良い影響の場合もあるし、逆に誹謗中傷などにより悪影響を及ぼすこともある。大きな力や影響力を持つものほど慎重に扱わなければ、誤って用いたときの代償も大きい。

ところが、今の世の中では、自らが発信する言葉の力の大きさを理解せず、軽い気持ちで

「言葉」を用いる人が増えているように感じる。そして、この風潮が多くの人を傷つけている。SNS上で著名人に向けられた誹謗中傷の言葉や、個人間での悪口の書き込みは、見るに堪えないものが多い。どうしてそのような言葉を発信できるのか、私には分からない。

SNS上での酷薄な書き込みが多い理由として、互いの顔が見えないため、周りの目を気にせず書き込めるという点が挙げられている。確かに書き込んだ人の外見は見えない。しかし、書き込んだ内容にはその人の内面がにじみ出ているように思う時がある。もちろん身元や人格を偽って書き込まれた嘘の投稿もあるため一概には言えないが、特に誹謗中傷の言葉はそうであると思う。

前述のような社会問題を解決するためにも、「言葉」の力と影響力の大きさを知ることは必要不可欠になってくるだろう。私は弟によって知ることができた。みなさんにも忘れられない「言葉」があるのではないか。また、偉人が残した名言の数々を調べてみるのも良いだろう。今まで語り継がれているということは、多くの人に何かしらの与えたということ。学べることはたくさんあるはずだ。

実は、先ほど挙げた二つの弟の言葉は、我が家にある「名言集ノート」から選んだものだ。このノートには、弟の発言の中でも特に家族の心に響いたものが記されている。私と弟。弟は似ているが性格が正反対の二人。次は、弟の口からどのような「言葉」が出てくるだろうか。そして、どのようなことを私に教えてくれるのだろうか。とても楽しみだ。